

令和5年度(2023年度)学校評価報告書

令和6年3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道上磯高等学校長 藤 井 浩 之

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

重点目標
1 学習評価及びカリキュラムについて検証し、意欲を引き出す学習指導体制を築く。
2 生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践する。
3 夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませる進路指導を推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育活動	【学習指導】 ○観点別評価の研修、成果発表会等を通じ学習意欲を向上させる取り組みに努めた。 ○BYOD端末を活用した授業実践や研修を通じ、学びの充実について研究を進めた。	○昨年度よりも評価数値が上昇しており、本校の取り組みが好意的に評価されていると分析する。
改善方策	○新教育課程における成果と課題を検証し、カリキュラムマネジメントを充実させる。 ○ICT活用についてDX事業の活用や定期的な研修会をさらに実効的なものとしていく。	
教育活動	【生徒指導】 ○日常の学校生活を活性化させる取組を目指し生徒会や委員会組織の改変を行った。 ○生徒が安心して過ごせる学校を目指し、保護者との連携を重視したが、情報発信に課題が残った。	○概ね好意的な評価と分析できるが、自己評価の適切さについては昨年度よりやや評価が下がっていたため、学校内部と外部の認識の乖離を埋める必要がある。
改善方策	○改変した生徒会・委員会を活用し、役割分担の見直しや行事運営の円滑化を進める。 ○保護者への情報発信を増やす方策を検討し、生徒会だより等を複数回発行する。	
教育活動	【進路指導】 ○「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、進路実現に向けた取組を行った。 ○進路実現に向けた学年及び保護者への支援を適切に行った。	○昨年度よりも評価数値が上昇しており、本校の取り組みが好意的に評価されていると分析する。
改善方策	○今後も学年と連携して実施していく。 ○今後も継続して、説明会・面談等を実施していく。	
学校運営	【開かれた学校づくり】 ○連絡会議で方向性の共有、早期の課題把握などを行い、授業や行事の合同開催など連携を深めた。 ○市内小学校との交流会、学校開放講座、中高情報交換会、北斗市夏祭りへの参加など開かれた学校づくりに努めた。	○A～Dによる4段階評価において少数ながらC評価がついた。開かれた学校づくりという取り組みにまだ不十分さが残ると認識されていると分析する。 ○
改善方策	○北斗高等支援学校との連携では両校の強みの共有を推進する。市内小中学校との交流は裾野を広げ、地域に開かれた学校づくりを推進する。	
学校運営	【組織運営】 ○業務の平準化には課題を残したが、超過勤務の削減、柔軟な変形労働時間制の活用は実施できた。 ○働き方改革を意識し、職員が主体的に取組み、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができた。	○上磯高校の良さが外部に伝わりきっていない。情報発信の頻度や方法の見直しを図ることを検討してほしい。
改善方策	○業務内容の精査やICTの活用による効率化をはかり、人事評価制度に係る定期面談等で実効性を確認する。	
学校運営	【教員の資質向上】 ○観点別評価、ICT活用、生徒理解の研修を充実させる一方、個々の研修の機会の充実を図った。 ○教育情報や社会の動き・課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたっていた。	○これからも充実した教育活動に向けて継続してほしい。
改善方策	○今後も継続・発展させていく。	
公表方法	○学校HPに学校評価報告書、自己評価アンケート・保護者アンケート結果及び学校関係者評価を掲載する。 ○PTA総会、学校評議員会、地域連携協議会等において公表する。	

3 添付資料

・保護者アンケート結果 ・自己評価アンケート結果 ・学校関係者評価